

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000056		
法人名	社会福祉法人柊野福祉会		
事業所名	グループホーム上桂（わかば）		
所在地	京都府京都市西京区上桂北村町114番地		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&ligosyoCd=2694000056-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F
訪問調査日	平成27年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方と共に食事作りが継続できており、出来ることの支援へと繋がっている。また、食材の調達場所の確保が確立されており、旬の食材や新鮮な食材を提供できており、噛むことが困難になりつつある入居者の方も食べることが出来る食事を提供できている。2ユニットであることで外出の協力体制もでき、少人数ずつであっても外出支援が上手できている。ご家族の定期的な面会も多く、入居者の方とご家族のつながりの支援が来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム上桂((2ユニット)は、「高齢者総合施設」ビル2階にある。1階は同じく地域密着型小規模多機能型介護事業所が併設され、近く開設4年目を迎える。歴史は浅いが、地域とは友好な相互関係が構築されている。1、3年前から地元小学3年生(約100名)との交流はカリキュラムにも入れられ、祖父母と同居する子供の少なくなっている現在、高齢者は心待ちにしている。小学生も先生から届いた写真から、楽しそうな笑顔いっぱいの表情がから確認できる。認知症の啓発に子供たちに寸劇を職員で演じたこともある。昔遊びに興じ、利用者は子供たちと過ごした時間はしっかり記憶されていると職員から聞いた。年間を通して、おやつ作りに招いたり、一方運動会・学芸会に招かれ相互交流が来ている。2、今年度、風水害対策の話し合いが地元消防署を中心に、当事業所で開催された。消防署・消防団・自治会会長・地元住民・社協・当事業所職員約20名が集まり第1回目の話し合いの席で、当ビルの2階・3階の一部が緊急避難場所として提供されることが決まった。防災は地域ぐるみの対応が求められる。今回の会議を契機に地域防災の市民意識の向上と、地域連携の強化に繋がることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基にホーム独自の行動指針を職員で話し合い作っています。事務所や目に付きやすい職員用トイレに掲示し、常に意識してケアに反映させています。	法人理念を踏まえ、職員により事業所理念及び行動指針を設け、各年職員で内容を確認している。内容は事務所内に掲示し共有しているが、外部発信は乏しい。理念は事業所の方向を示し、実践を確認するもので内外共の発信を望みたい。	パンフレットや毎月家族に届けられる用紙類の定位置に表示し、家族との理念の共有を図られてはいいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のドラッグユタカやスーパーマツモトに、利用者様と共に買い物に行ったり、洋食屋や喫茶店に行っている。また、近隣の小学校のイベント(運動会・夏祭り)に参加したり、毎年3回、3年生との交流の機会を設けている。	地元神社の神輿担ぎの要請や神輿の休憩場所、自治会会議会場の提供をしている。一方ホームもテント等を借り、相互交流が出来ている。利用者も地元の催しへの参加、買物等で地域に出かけることも多い。小学校との交流も認知症の啓発機会として貴重である。事業所の「夏祭り」は地域から出店もあり、地域の催しとして定着しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上桂感謝祭を秋に開催し、福祉用具の展示や介護相談会、施設見学等の機会を作っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症発生時に、一事業所としてではなく高齢者総合施設として全館で対応した内容を報告し、ご家族に安心して頂くことが出来た。	会議は「高齢者総合施設施設」内の3種類の事業所合同の会議になっている。利用者・家族・自治会会長・社協・包括支援センター並びに、各事業所代表が構成メンバーである。各事業の報告に質疑応答がされ、意見や情報提供がされている。参加家族からは、「利用始め妻の表情や言動が明るくなった」「事参に参加した孫が楽しんでいた」との感想が述べられている。今後共サービス向上に活かされることを期待したい。	会議は会議に求められているメンバーで構成されているため、欠席の場合の代理出席等の配慮を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か相談事があれば市へ直接出向き、事故報告や現状を伝えながら市との協力関係が築けるように努めている。	介護保険に関する情報収集など、担当者に相談に行っている。又小学生向きの認知症等理解に関する相談などもしている。	

京都府 グループホーム上桂(わかば)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員研修等で学び身体拘束をしないケアを周知するように努めています。また、ユニットごとに日々のケアが身体拘束になっていないか現場の事例を通して振り返り、身体拘束をしないケアを目指しています。利用者は自由に出入りができます。	マニュアルが設けられ、年に1回、高齢者虐待・身体拘束の内部研修をしている。現段階では、スピーチロックが日常的には関心事になっており職員全体で、意識し、注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回研修を実施。ベッド上で体動のある方に対し4本柵を実施しなくてもいいように別途ベッドサイドに緩衝マットを設置した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しようとしている御家族があり、面会時や電話にてその都度話しを伺い相談にのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書、入居契約書、入居の手引きを準備し説明しています。改定については説明書を提示しご理解いただいています。直接の意見については迅速に対応しています。意見箱の設置、苦情受付窓口の掲示を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族も参加する行事の時に意見を聞いています。ホームから定期的に郵送する便りも活用しながら、意見や要望を聞く機会とし、皆で共有しています。	家族の出身地域は様々で面会に頻繁に来られる家族もある。ホームは毎月「日常のご様子」や介護計画の実践報告を写真と共に送り、ホームでの暮らしを家族に伝えている。家族懇談会やアンケートは取り組んでいない。一方外部評価実施に当たり行う既定のアンケート回答は8割近く回答がありサービスへの関心の高さが窺えた。この家族の関心は貴重であり、事業に活かされることを望みたい。	アンケート調査や、家族懇親会、行事への声かけなどを実施され、家族の参加について検討されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議だけでなく日常的なコミュニケーションや、引き継ぎノート等によって、職員の意見等を聴く機会を設けている。また、グループホーム管理者会議に代表者も参加し、運営状況や職員の意見等を共有している。	職員の引継は約10分程度行い記録で確認・共有している。職員会議はユニット単位と、2ユニット合同職員会議(会議後内部研修)が実施されている。管理者は全ホーム会議に参加し意見を聞いている。職員会議は職員補充要望や勤務時間について等活発に交わさ調整され改善されている。研修等についても研修内容や受講状況、派遣のための勤務体制について率直に説明し話合われている。	

京都府 グループホーム上桂(わかば)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の希望(勤務日数、休日、夜勤回数等)を聞き、出来る限り希望に沿うように調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や法人内研修に参加している。また法人内のグループホーム3事業所合同研修も実施している。施設外研修への参加が少ないので今後機会を増やしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム3事業所で合同研修を行い、グループワーク等を通じて自己研鑑に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に困りごと等の聞き取りを行い、ケアプランに反映させるようにしている。また入居後も積極的に話をする機会を設け安心して頂けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上、毎月送付するご家族だよりにて日頃の様子やケアプランの実施状況を記載し写真を添付することで安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同建物内にある小規模多機能施設を利用する御主人と会う機会を作る為、事業所を変えて職員間で連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に調理や洗濯をしたり、それぞれの「できること」を活かし、やりがいを感じて頂けるようお声掛けや見守りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの「担当者」のところは、ご家族も入れ面会に来ていただいたり、外出、外食、好きな物の差し入れをして頂くことで利用者の楽しみ、喜びの感情を引き出すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住む息子様への手紙を代筆しそれを身元引受人の御家族にお渡ししたりしている	1階のガーデンハウスの友人を訪ねたり、1階の帰宅願望の利用者が2階に来て落着いて過ごされたりと、事業所の多機能化を活かした過ごし方も見られる。馴染みの美容室に家族と出かけたり、月に1度自宅に帰る人、年に数回家族とすごされる利用人も、「ここが我家」と落ち着き戻って来られる様子を職員は見守り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性やそれぞれどう感じておられるかを把握し、相性が合わない場合は職員が間に入り交流の橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡を下さる家族もおられ、必要に応じて相談等の支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で何気ない一言でも希望、意向であれば記録に残し職員間で周知している。また、ケアプランに取り入れるようにしている。	初回の面談時に、本人や家族の意向を把握し、アセスメントはセンター方式を一部取り入れ、グループホームの共通様式にとりまとめている。計画作成者はケース担当と意見を交換し、介護計画案を作成し利用者・家族と調整を図り、ニーズの反映に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人の希望にて在宅時より引き続き週に3～4回訪問リハビリを利用しておられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を細かく記入する事で職員間で情報共有を行っている。また、会議でも状態の変化等について検討し、支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議には、利用者にも参加して頂き、利用者、ご家族の意向を再確認しながら共にケアプランを作り上げるようにしている。	介護計画作成に当たり、例えば利用者の週1回は買物などに出かけたいのニーズに地域の店への買物をプランに入れている。好きな物・美味しいものを食べ健康的に過ごしたいのニーズに、家族からの定期的な差し入れの提案を、計画作成担当者他関係者で話し合い共有しプランに入れている。日々の実践状況はその日の出勤者がチェックし、モニタリングは3ヶ月毎に実施し、問題がなければ1年目に再アセスメントをとっている。	

京都府 グループホーム上桂(わかば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を細かく記入する事と職員同士の引き継ぎをしっかりと行い意見交換をする事で情報共有している。また連絡ノートを使用し、細かい伝達もしっかり行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「センターに行く」と言われることが多い方に対し、同建物の小規模多機能施設のレクリエーションに参加して頂いたりし、気分転換や充実感を感じて頂けるようにした。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の介護タクシーを利用し、利用者がご自宅へ帰られたり、法事に参加するという機会があった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の歯科ではなくご家族が捜してこられた歯科の往診を受けられたり、過去にかかれていたなじみの歯科へ通院を継続されている。	現在利用者は全員、協力医療機関の医師を主治医とされている。月2回往診を受け、受診時、家族が同席されることもある。他に認知症専門医受診者、歯科医の受診、口腔衛生士チェックをしてもらっている人がある。皮膚科・眼科等には家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化や気になる点があれば都度看護師に報告し、指示や、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院の地域連携室と連絡を取り合い情報交換に努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年に1回ターミナルケア研修を実施。状態が落ちられベッド上で全介助を要するようになった方については医師、看護師、介護職、ご家族とで話し合いの場を設け、その時の内容をケアプランにもりこんだ。	緊急の場合、現在、看護師不在のため、主治医に連絡をとり、関係医療機関等への連絡等、必要な措置を迅速に講じ対応している。なお、重度化や期末期に向けた指針は明文化されていない。	

京都府 グループホーム上桂(わかば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等に基づき、事故発生時の対応等については定期的に確認を行っている。定期的な普通救命講習会への参加等も参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間想定、夜間想定消防訓練を毎年実施している。また地域の方とも防災に関し話をする機会を設けた。	昨年、近くの河川の増水を経験し、地域の風水害対策について、消防署主催で、当事業所にて地域防災の関係者約20名が集まり話し合われた。当総合施設は「福祉避難所」の指定を受けていないが、水害被災時は2、3階に近隣の人達の一時避難の受け入れをする方向でまとめた。なお、ホームの防災計画に基づく避難訓練は計画に基づき年2回実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修の中で、権利擁護や人権について周知を図っています。訪室時はノックすることや排泄時の声かけは周りに配慮し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアをしています。	個人情報保護、プライバシー保護、権利擁護について、内部研修をしている。居室・トイレ等は内側から施錠できる。名前は苗字で呼び、トイレへの誘導には尊厳を配慮した声かけを心がけている。新人には本部での接遇他研修がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「〇〇して下さい」ではなく、選択肢を上げ、ご本人に決定して頂くことを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく入居者の様子や要望を大切に過ごして頂いている。また、レクリエーションや外出等も個々に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に化粧品を買いに行ったり眉毛の描き方を使えたりしている。外出時やお正月のときはおしゃれをして頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もりつけ、よそう、配る、洗う、拭く、棚に片づける等、利用者の出来る事を把握し、それぞれして頂いている。	食事は職員の当番制になっており、献立は当番が利用者の声を参考に立てている。食材はユニット毎に調達している。調理・配膳・片付け等は可能な限り利用者に参加を勧めている。食形態は利用者により配慮されている。食事は職員も入り、和やかな雰囲気の中で採っている。行事として、出前寿司やプリ解体職人を招き、豪華な雰囲気等を味わい楽しんでいる。	

京都府 グループホーム上桂(わかば)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食量が少ない方には、別紙でチェック表を作成し、水分や食事の内容を詳細に記録している。また、朝昼夕にとられずにその方のタイミングで支援できるよう職員間で連携している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシ、歯間ブラシ、スポンジブラシ等を使い、口腔ケアを行っている。また、歯科往診時には連絡ノートを活用し、口腔ケアの仕方など助言を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットの使用もしつつ、声掛けの頻度や仕方も工夫し、出来るだけ排泄動作を自身でしてもらえるように支援している。	基本的にはトイレでの排泄を目標とし、必要な利用者には排泄チェック表をつけ、声かけをし必要な支援をしている。布パンツ、リハビリパンツ、パットは個々の利用者に合わせ相談しながら、快適に過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や豆乳を取り入れたり毎日10時と15時に体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応曜日は振り分け設定しているが、ご本人の状態や気分に合わせて入浴出来るように配慮している。	現在、入浴は週2回になっている。ゆっくり入浴を楽しむ人があり、長くなっている。2回以上入浴を希望する人には要望に応えられるよう対応している。一方、入浴が気乗りしない利用者もあり、対応に工夫し入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つけない方には、温かい飲み物や軽食を出したり、職員本位で臥床を勧めずに、テレビを見てい頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば、ケース記録や連絡ノートを活用して周知を図り、様子の変化については、詳細を記録に残すようにしている。		

京都府 グループホーム上桂(わかば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物が得意な方にして頂いたり、希望されるタイミングで買い物に出たりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーやドラッグストア、小学校の催し物などに出かけている。また、ご家族と共にドライブや外食されることもある。	周囲の交通事情から道を選び散歩に出かけている。外出好きの利用者は近くのスーパーやドラッグストアに買い物に出かけることも少なくない。月1・2回リクエストを受け外食や、近くの喫茶店に出かけている。年間行事の花見、地域の祭りや行事、学校行事に出かける機会も多い。個々の希望や、体調に合わせ、外出の楽しみを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を持っておきたい方に関して、ご家族にリスクを説明した上、自己管理して頂いている。また、見守りのもと自身で清算して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	紙とペンを用意し、ご家族への手紙を書いて頂いたり、職員が利用者の言葉を代筆し、ご家族に渡すことが増えてきている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけを行ったり、利用者の状態変化や要望に応じてテーブルの配置、席替えを行ったりしている。	共用空間は、比較的広く建物自体が新しいため、室内は清潔感もある。窓が大きく、日差しはカーテンで調節されている。手作りの大きなカレンダー・利用者の作品が目を引く。花瓶の花から季節も感じられる。室内は空調器・加湿器を設置し湿度や室温が調節されている。室内には、聴覚に障る音もなく、ゆったりと座れるソファが置かれ、利用者が編み物を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士で過ごせるよう席も工夫している。また、独りでゆっくり過ごされたい時は、自居室で過ごして頂けるよう声掛けし、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくご本人が使用されていた生活用具を持参して頂いている。また、レクリエーション等で制作された装飾品もご本人と相談し、居室に飾ったりしている。	各居室の入り口に室内を遮る暖簾がかけられている。一人ひとり模様が異なり明るく人目を引く。各居室には洗面・トイレが設置されている。居室内は結構ゆとりがあり明るい。ベッド・机の上には生花、時計、写真・筆筒・テレビ等と、住人の個性と寛ぎが伝わってくる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室トイレに細工をし、わざとドアがぴっちり閉まらないようにしている。(夜間トイレから明かりがもれることで意識が向いて出室しなくてもトイレ使用できるように。)		